

令和8年度 3学年

ツラバス

科目内容紹介



長野県蘇南高等学校

総合学科

3年 組 番 氏名

| | | | | | | | |
|------|---|---|--|-----------------|----|-----|---|
| 教科 | 国語 | 科目名 | 論理国語 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 文理系列を選択している生徒全員 | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 | <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | |
|----------|---|--|---|
| 学習目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身につける。論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 文章を読んで、構成、展開、要旨、情景、心情などを的確にとらえ、その論理性を評価し、表現を味わうことを通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。 | |
| | 思考・判断・表現 | 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて知識を活用して思考する力を身につける。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。 | |
| 使用教科書 | 新編 論理国語(大修館書店) | 使用副教材 | ・級別漢字の総仕上げ(中部日本教育分科会) ・LT現代文2(浜島書店) ・新版六訂カラー版新国語便覧(第一学習社) |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|------------------|--------|----------|-----------------|--------------|
| | 年間学習計画 | ミロのヴィーナス | 6 | 「である」と「すること」 |
| 人類の進化から考える「心」の誕生 | | 5 | 人口減少社会の到来 | 6 |
| ロボットに心はあるか | | 5 | 第3回考査 | |
| 人類の進化から考える「心」の誕生 | | 6 | | |
| 第1回考査 | | | | |
| ロボットに心はあるか | | 6 | 未来の地図帳 | 6 |
| クオリアと心 | | 6 | エネルギー 耕作型文明への転換 | 6 |
| 志望先への提出書類 | | 2 | 豊かさをつながり | 6 |
| 志望理由書を書こう | | 2 | 学年末考査 | |
| 自己推薦書を書こう | | 2 | | |
| 第2回考査 | | | | |
| 合 計 | | | | 70 |

| | | |
|------------------|---|-------------------------------------|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査(70%)・課題提出(30%)による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 毎時間、漢字小テストを実施するので、予習・復習をきちんと行う。 教科書の文章は授業でも朗読するが、自分で何度も読んで語彙を身につける。 わからない単語は辞書で調べ、語彙を増やす。 黒板の板書をきちんとノートに取り、復習する。特に文法事項に関してよく理解し、課題などで繰り返し練習して身に付けるようにする。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|--|--|---------------------------|----|-----|---|
| 教科 | 国語 | 科目名 | 文学国語 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 文理系列選択者で、私立四年制大学文系を志望する者。 | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 | <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|--|-------|--|--|--|--|
| 学習目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語文化に対する理解を深める。深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ、深める。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 文章を読んで、構成、展開、要旨、情景、心情などを的確にとらえ、その論理性を評価し、表現を味わうことを通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて知識を活用して思考する力を身につける。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。 | | | | | |
| 使用教科書 | 高等学校 文学国語(第一学習社) | | 使用副教材 | ・級別漢字の総仕上げ(中部日本教育分科会) ・新版六訂カラー版新国語便覧(第一学習社) | | | |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--|------------------|--------|--------------------------------|-----------------------|
| | 棒 骰子の七の目 | 6 4 | | 舞姫 テーマを決めて短歌・俳句を作る |
| のちのおもひに 足と心 ちがう人間ですよ | 8 | | 第3回考査 | |
| 第1回考査 | | | 枯野抄 物語を想像する 古典を基にして物語を作る | 8 5 5 |
| わからないからおもしろい もしも、詩があったら 血であがなったもの 夏の花 | 4 4 5 5 | | 学年末考査 | |
| 第2回考査 | | | | |
| | 合 計 | | | 70 |

| | | |
|------------------|--|-------------------------------------|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査(70%)・課題提出(30%)による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 教科書の文章は授業でも朗読するが、自分で何度も読んで語彙を身につける。 わからない単語は辞書で調べ、語彙を増やす。 黒板の板書をきちんとノートに取り、復習する。特に文法事項に関してよく理解し、課題などで繰り返し練習して身に付けるようにする。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|---|--|----|-----|---|
| 教科 | 国語 | 科目名 | 古典探究(3年) | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 四年制大学への進学を志望している者は、選択することが望ましい。 | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|---|--|-------|---|--|--|
| 学習目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める力を身につける。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わるなかで、論理的に考え、知識を活用して思考する力を身につける。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して未来の自分を創造する力を身につける。 | | | | | |
| 使用教科書 | 高等学校 精選古典探究(第一学習社) | | | 使用副教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・新修 古典文法 二訂版(京都書房) ・重要 古文単語315四訂版(桐原書店) ・カラー版新国語便覧(第一学習社) | | |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|-------------|----------------------|---------|-------|-------|
| | 源氏物語 蜻蛉日記 更級日記 | 10 7 | 大鏡 | 第3回考査 |
| 第1回考査 | | | | |
| 更級日記 枕草子 | 8 15 | 源氏物語 | 学年末考査 | 15 |
| 第2回考査 | | | | |
| | | | 合 計 | 70 |

| | | |
|------------------|--|-------------------------------------|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査(70%)・課題提出(30%)による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 先生の話を聞き、ノートをきちんと取る。 知っている言葉の語彙を増やす。 声に出して文章を読む。 予習・復習をする。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|---|----------|----|-----|---|
| 教科 | 国語 | 科目名 | 教養国語 | 年次 | 3年 | 単位数 | 3 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 誰でも選択可能。 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | | |
|----------|---|--|-------|-----------------|
| 学習目標 | 言葉による見方、考え方を働かせ、自発的に表現する力の向上をはかるとともに、語彙を豊かにし、ことばに対する興味関心を高めることで、正確に読解する力を伸ばして、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 実社会に必要な、人間と世界についての豊かな知識や技能を身につける。 | | |
| | 思考・判断・表現 | 実社会で必要となることを見据えて、知識を活用して思考する力を身につける。 | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。 | | |
| 使用教科書 | なし | | 使用副教材 | 国語常識ベーシック(数研出版) |

| | 前 期 | | 時間 | 後 期 | | 時間 | |
|---------------------------------|--------|--------------------------------|-----|---------------------------------|----------------------|-------|--|
| | 年間学習計画 | 国語常識ベーシック 基礎編1～6 漢字検定の対策 | 6 | 6 | 国語常識ベーシック 演習編9～16 | 12 | |
| 読書 | | 5 | 5 | インタビューをして新聞にまとめる | 10 | | |
| | | 6 | 6 | | | 第3回考査 | |
| 国語常識ベーシック 基礎編7～12 漢字検定の対策 | | 6 | 6 | 国語常識ベーシック 演習編17～20 敬語編1～5 | 14 | | |
| | | 5 | 5 | | | 第1回考査 | |
| NIE | | 6 | 6 | ことわざカルタ 読書 | 6 7 | 学年末考査 | |
| 国語常識ベーシック 演習編1～8 文豪双六を作ろう | | 12 | 12 | | | | |
| | | 10 | 10 | | | 第2回考査 | |
| | | | 合 計 | | 105 | | |

| | | |
|------------------|--|-------------------------------------|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査(70%)・課題提出(30%)による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 提出期限までに課題を提出する。 知っている言葉の語彙を増やす。 復習をする。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|---|---|----|-----|---|
| 教科 | 国語 | 科目名 | 現代文表現 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 誰でも選択可能。 | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 | | <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | |
|----------|--|---|--------------------------------|
| 学習目標 | 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨くとともに、言葉による見方・考え方を働かせ、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 実社会に必要な、人間と世界についての豊かな知識や技能を身につける。 | |
| | 思考・判断・表現 | 他者に考察の核心を伝えることを通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力を身につける。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して未来の自分を創造する力を身につける。 | |
| 使用教科書 | なし | 使用副教材 | 基礎からはじめる国語の表現力トレーニングノート(大修館書店) |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|---------------------|--------|-----------|--------------|-----------------------|
| | 年間学習計画 | 国語表現ガイダンス | 1 | トレーニングノート(5)メディアを駆使する |
| トレーニングノート(1)レッスン1 | | 3 | 魅力的な話し方を学ぶ | 8 |
| 原稿用紙の使い方 | | 2 | 年賀状を出す | 4 |
| トレーニングノート(1)レッスン2・3 | | 4 | | 第3回考査 |
| テーマ作文を書く | | 8 | 本のポップを作る | 4 |
| | | 第1回考査 | キャッチフレーズを付ける | 6 |
| トレーニングノート(1)レッスン4・5 | | 4 | 主張を明確に伝える | 7 |
| 小説の続きを考える | | 8 | | |
| 写真を撮って俳句を詠む | | 6 | | 第2回考査 |
| | | | 合 計 | 70 |

| | | |
|------------------|--|-------------------------------------|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査(70%)・課題提出(30%)による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 表現の授業なので、自分から主体的に、書くこと、話すことをしないと評価できないため、積極的に取り組むこと。 授業内で課題が終わらない場合、居残り、家庭学習などを指示するので、必ず提出すること。 他の国語の科目に比べ、評価点における平常点の割合が高いため、課題は必ず提出すること。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----------------------------|-------------------------------|--|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 教科 | 国語 | 科目名 | 古典総合 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 文理系列選択者で、四年制大学を志望している者。2年次に「古典探究」を履修していることが望ましい。 | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 | <input type="checkbox"/> 教養 | <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 | <input type="checkbox"/> 経ビ | <input type="checkbox"/> もの | <input type="checkbox"/> 全員 |

| | | | |
|----------|---|---|---|
| 学習目標 | 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、考え方を働かせ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める力を身につける。 | |
| | 思考・判断・表現 | 古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わるなかで、論理的に考え、知識を活用して思考する力を身につける。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して未来の自分を創造する力を身につける。 | |
| 使用教科書 | 錬成古文(尚文出版) | 使用副教材 | ・新修 古典文法(京都書房) ・重要古文単語315(桐原書店) ・新版六訂カラー版新国語便覧(第一学習社) |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|------------------------------|------------------------|-------------------|--|---------|
| | ステップ1 1～5 用言、助動詞の復習 | 10 | ステップ2 16～20 助詞の学習 ステップ3 21～23 敬語の確認 | 10 5 |
| ステップ1 6～10 基本的な助動詞の確認 | 10 | ステップ3 24～30 識別 | 10 第3回考査 | |
| ステップ2 11～15 助動詞の完成、和歌の修辞法 | 10 | 入試問題演習 | 10 学年末考査 | |
| 入試問題演習 | 5 | | 第2回考査 | |
| | | 合 計 | 70 | |

| | | |
|------------------|---|-------------------------------------|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査(70%)・課題提出(30%)による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 毎時間、古文単語の小テストを実施するので、予習・復習をきちんとすること。 古典の文章は、授業でも朗読するが、自分で何度も読む方が、内容も頭に入り、語彙も身につくので、家庭学習をすること。 予習の段階で、助動詞のチェック、自分で口語訳をしておくこと。 わからない単語は辞書や単語帳で調べ、語彙を増やすこと。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|---|--|----|-----|---|
| 教科 | 地理歴史 | 科目名 | 地理探究 | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|---|-------|-------------------|--|--|
| 学習目標 | 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解し、諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。 | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。 | | | | |
| 使用教科書 | 地理探究（山川出版社） | | 使用副教材 | 最新地理図表 GEO（第一学習社） | | |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|-----------------|------------------|----|-------------------------|----------------|
| | 第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察 | | | 第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察 |
| 第1章 自然環境 | | 25 | 第1章 地域区分 | 5 |
| 1 地形 | | | 1 現代世界の地域区分 | |
| 2 気候と生態系 | | | 第2章 現代世界の諸地域 | 60 |
| 3 世界各地の自然と生活 | | | 1 中国 | |
| 4 日本の自然環境と防災 | | | 2 朝鮮半島 | |
| 5 地球環境問題 | | | 3 東南アジア | |
| 第2章 資源と産業 | | 20 | 4 南アジア | |
| 1 農林水産業 | | | 5 西アジア・中央アジア | |
| 2 資源・エネルギー | 第1回考査 | | 6 北アフリカ・サブサハラアフリカ | 第3回考査 |
| 3 工業 | | | 7 ヨーロッパ | |
| 4 第3次産業 | | | 8 ロシア | |
| 第3章 人・モノ・金のつながり | | 10 | 9 アングロアメリカ | |
| 1 交通・通信 | | | 10 ラテンアメリカ | |
| 2 貿易・観光 | | | 11 オーストラリア | |
| 第4章 人口、村落・都市 | | 10 | 12 ニューージーランドと島嶼国 | |
| 1 人口 | | | 第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像 | 5 |
| 2 村落・都市 | | | 1 現代日本に求められる国土像 | 学年末考査 |
| 第5章 文化と国家 | | 5 | | |
| 1 生活文化と言語・宗教 | 第2回考査 | | 合 計 | 140 |

| | | |
|------------------|---|--|
| 履修要件 | 1 地理総合を履修済みであること。 2 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 3 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出やアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みやアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業を大切にすること。 ・共通テストを見据え、問題演習を行うことがある。 ・また、四大理系進学希望者は参考書や一問一答などの購入を早めに考えること。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|---|--|----|-----|---|
| 教科 | 地理歴史 | 科目名 | 日本史研究 | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 2年次の「日本史探究」を履修していることが望ましい | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|---|--|-------|--|--|--|
| 学習目標 | 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 我が国の歴史の諸事象について、様々な資料などと関連づけながら総合的に理解し、我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめられる力。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 我が国の歴史事象の意味や意義などを、現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察し、歴史にみられる課題を探究し、それらを他人に伝えられる力。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 我が国の歴史の諸事象について、課題の最適解を探究し、よりよい社会の実現を視野に未来の自分を創造しようとする力。 | | | | | |
| 使用教科書 | 高校日本史(山川出版社) ※2年次に使用したものを継続使用 | | | 使用副教材 | 歴史資料館 日本史のライブラリー(とうほう) ※2年次に使用したものを継続使用 | | |

| | 前 期 | | 時間 | 後 期 | | 時間 |
|---|--------|--------------|----|--|------------------------------------|-----|
| | 年間学習計画 | はじめに 2年次の総復習 | | 4 | 第12章 近代国家の成立 1. 明治維新 2. 立憲国家の成立 | |
| 第7章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 下剋上の社会 3. 室町文化 4. 戦国の動乱 | | | 14 | 第13章 近代国家の展開と国際関係 1. 大陸政策の展開 2. 第一次世界大戦と日本 3. ワシントン体制 | | 14 |
| 第8章 近世の幕開け 1. 天下人の登場 2. 豊臣政権と桃山文化 | | | 8 | 第14章 近代の産業と生活 1. 近代産業の発展 2. 近代の文化 3. 市民生活の変容と大衆文化 | 第3回考査 | 14 |
| 第9章 幕藩体制の成立と展開 1. 江戸幕府の成立 2. 江戸初期の外交と文化 3. 幕政の安定 4. 経済の安定 5. 元禄文化 | | 第1回考査 | 20 | 第15章 恐慌と第二次世界大戦 1. 恐慌の時代 2. 軍部の台頭 3. 第二次世界大戦 | | 14 |
| 第10章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 2. 江戸幕府の衰退 3. 化政文化 | | | 16 | 第16章 現代の世界と日本 1. 占領下の政策と主権の回復 2. 55年体制と高度経済成長 3. 現代の情勢 | 学年末考査 | 14 |
| 第11章 近世から近代へ 1. 開国とその影響 2. 幕府の滅亡と新政府の発足 | | 第2回考査 | 10 | 合 計 | | 140 |

| | | |
|------------------|---|---|
| 履修要件 | 1. 上記の教材や必要に応じて指示された物を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が規定の授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1. 上記、履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を求められた場合は期限内に済ませること。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。(50%程度) |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。(30%程度) |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、ルーブリックおよびアセスメント(振り返りシート)による。(20%程度) |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業が基本になります。欠席をせず、毎時間の授業のなかで小さなことでもよいので新たな発見や理解を積み重ねてください。 ・教科書の内容を網羅することは難しいので、わからないことは自分で調べたり質問したりしてください。 ・共通テストなど、日本史探究を受験科目の1つとして使おうとする場合は、「歴史総合・日本史探究」の組み合わせ(共通テストの場合)になるので、歴史総合の範囲を含めて、個人個人での用語集や問題集の購入などを視野に入れ、自学自習もおこなっていくことが必要になってきます(冊子の紹介はする予定です)。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|--|----|----|-----|---|
| 教科 | 公民 | 科目名 | 政治経済 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|--|---|--|-------|----|--|--|
| 学習目標 | 社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付け | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 現実社会に見られる複雑な課題を把握し、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、知識を活用して思考する力を養う。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | よりよい社会の実現のために、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、学んだことが未来につながることを創造する力を身に付ける。 | | | | | |
| 使用教科書 | 最新政治・経済(実教出版) | | | 使用副教材 | なし | | |

| 年間学習計画 | 前 期 | | 時間 | 後 期 | | 時間 |
|------------------|----------------|-------|----|--------------------|--------------------|----|
| | 第1部 現代日本の政治・経済 | | | | 第3編 現代社会における諸課題の探究 | 5 |
| 第1編 現代日本の政治 | | | | 第2部 現代の国際政治・経済 | | |
| 1章 現代国家と民主政治 | | | 5 | 第1編 現代の国際政治 | 10 | |
| 2章 日本国憲法と基本的人権 | | 第1回考査 | 10 | 1章 国際政治の動向と課題 | 第3回考査 | |
| 3章 日本の政治制度と政治参加 | | | 5 | 第2編 現代の国際経済 | | |
| 第2編 現代日本の経済 | | | | 1章 国際経済理論 | 5 | |
| 1章 現代の経済社会 | | | 10 | 2章 国際経済の動向と課題 | 10 | |
| 2章 現代の日本経済と福祉の向上 | | 第2回考査 | 5 | 第3編 国際社会における諸課題の探究 | 5 | |
| | | | | | 学年末考査 | |
| | | | | 合 計 | 70 | |

| | | |
|------------------|---|--|
| 履修要件 | 1 公共を履修済みであること。 2 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 3 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出やアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みやアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業を大切にすること。 ・世の中で起きていることに関心を持ち、自ら知りたいという積極性を大事にすること。 ・新聞やニュースを見るようにすること。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|--|----|----|-----|---|
| 教科 | 公民 | 科目名 | 教養社会 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|---|--|-------|------------------|--|--|
| 学習目標 | 社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解する力を養うとともに、時事問題についての豊かな知識と技能を身に付ける。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 現実社会に見られる複雑な課題を把握し、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、知識を活用して思考する力を養う。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | よりよい社会の実現のために、学んだことが未来につながることを創造する力を身に付ける。 | | | | | |
| 使用教科書 | 公共(実教出版) | | | 使用副教材 | ニュービジョン公共 (浜島書店) | | |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|------------------|-----------------------|----|----------------|--------------|
| | 第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち | | | 3 国際社会と人類の課題 |
| 2 現代の経済社会と国民生活 | | | 第1章 国際政治の動向と課題 | 15 |
| 第1章 現代の経済社会 | | 15 | 時事問題 | 3 |
| 時事問題 | 第1回考査 | 3 | | |
| 第2章 日本経済の特質と国民生活 | | 15 | 第2章 国際経済の動向と課題 | 15 |
| 時事問題 | 第2回考査 | 2 | 時事問題 | 2 |
| | | | 第3回考査 | |
| | | | 学年末考査 | |
| | | | 合 計 | 70 |

| | | |
|------------------|---|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出やアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みやアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業を大切にすること。 ・世の中で起きていることに関心を持ち、自ら知りたいという積極性を大事にすること。 ・新聞やニュースを見るようにすること。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|---|--|----|-----|---|
| 教科 | 数学 | 科目名 | 数学Ⅲ | 年次 | 3年 | 単位数 | 3 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」を履修していること。 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 <input type="checkbox"/> 経ビ <input type="checkbox"/> もの <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | |
|----------|--|---|----------------|
| 学習目標 | 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、極限や微分法、積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を養う。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 初等解析学の概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。 | |
| | 思考・判断・表現 | 身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。 | |
| 使用教科書 | 数学Ⅲ Standard(東京書籍) | 使用副教材 | WIDE 数学Ⅲ(東京書籍) |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|----------------------------------|--------|-----------------------------------|-----|--|
| | 年間学習計画 | 第1章 関数と極限 関数 数列の極限 関数の極限 | 30 | 第4章 積分とその応用 不定積分 定積分 面積・体積・長さ |
| 第2章 微分 微分法 いろいろな関数の導関数 | | 15 | | |
| 第3章 微分の応用 関数の増減 微分のいろいろな応用 | | 20 | | |
| 合 計 | | | | 105 |

| | | | |
|------------------|--|---|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | | |
| 修得要件 | 以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度） | | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 | |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 | |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・予習よりも復習のほうの方が大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。 ・以下の学習をすると力がついていきます。 ①「公式を覚える」のために”例”や”例題”を解く ②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く ③「入試に向けた基本的な解法を覚える」ために”応用例題”や”章末問題”を解く | | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|---|--|----|-----|---|
| 教科 | 数学 | 科目名 | 数学C | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 文理系列選択者で、「数学Ⅱ」「数学A」を履修していることが望ましい。 | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|-------|----------------|--|--|
| 学習目標 | 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的な活動を通して、ベクトルや複素数平面という図形を扱う様々な考え方への理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を養う。 | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | ベクトルや複素数平面の基本的な概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。 | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。 | | | | |
| 使用教科書 | 数学C Standard(東京書籍) | | 使用副教材 | WIDE 数学C(東京書籍) | | |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--|--------|---|-----|---|
| | 年間学習計画 | 第1章 ベクトル 平面上のベクトル ベクトルの分解 ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトル方程式 空間のベクトル 空間座標と空間のベクトル 空間のベクトルと内積 位置ベクトルと空間の図形 | 35 | 第3章 複素数平面 複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理 2直線のなす角 複素数平面上的の図形 |
| | | | 合 計 | 70 |

| | | | |
|------------------|--|---|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | | |
| 修得要件 | 以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度） | | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 | |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 | |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。 ・以下の学習をすると力がついていきます。 ①「公式を覚える」のために”例”や”例題”を解く ②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く ③「入試に向けた基本的な解法を覚える」ために”応用例題”や”章末問題”を解く | | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|-----------------------------|------------------------------------|---|-----|---|
| 教科 | 数学 | 科目名 | 数学C | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 文理系列選択者で、「数学Ⅱ」「数学A」を履修していることが望ましい。 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 | <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理・ <input type="checkbox"/> 経ビ・ <input type="checkbox"/> もの・ <input type="checkbox"/> 全員 | | |

| | | | |
|----------|--|---|----------------|
| 学習目標 | 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的な活動を通して、ベクトルや複素数平面、極座標などの図形を扱う様々な考え方への理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を養う。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | ベクトルや複素数平面、極座標等の基本的な概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。 | |
| | 思考・判断・表現 | 身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。 | |
| 使用教科書 | 数学C Standard(東京書籍) | 使用副教材 | WIDE 数学C(東京書籍) |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--------|---|----------------------------|-----|--|
| | 第1章 ベクトル 平面上のベクトル ベクトルの応用 空間におけるベクトル 第3章 複素数平面 複素数平面 図形への応用 | 第1回考査 第2回考査 | 35 | 第2章 平面上の曲線 2次曲線 媒介変数表示と極座標 第3回考査 学年末考査 |
| | | | 合 計 | 70 |

| | | | |
|------------------|--|---|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | | |
| 修得要件 | 以下の観点総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度） | | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 | |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 | |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。 ・以下の学習をすると力がついていきます。 ①「公式を覚える」のために”例”や”例題”を解く ②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く ③「入試に向けた基本的な解法を覚える」ために”応用例題”や”章末問題”を解く | | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|---|--|----|-----|---|
| 教科 | 数学 | 科目名 | 探究数学 | 年次 | 3年 | 単位数 | 3 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|--|-------|------------------------------|--|--|
| 学習目標 | 数学 I・Aの基礎学力を補いつつ、数学的な見方・考え方を働かせ、大学入学共通テスト等の高度な内容に触れることで、自力で問題を解決するまで粘り強く考え続ける姿勢を育み、思考力・応用力を高める。 | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 数学 I Aの概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。 | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。 | | | | |
| 使用教科書 | | | 使用副教材 | 進研ウィンステップ 数学 I・A Basic[新課程版] | | |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|---|--------|--|--|--|
| | 年間学習計画 | UNIT1 数と式 STEP1 WARMING UP STEP2 MASTER・ACTIVE | 10 | UNIT5 場合の数と確率 STEP1 WARMING UP STEP2 MASTER・ACTIVE |
| UNIT2 2次関数 STEP1 WARMING UP STEP2 MASTER・ACTIVE | | 15 | UNIT6 図形の性質 STEP1 WARMING UP STEP2 MASTER・ACTIVE | 15 |
| UNIT3 図形と計量 STEP1 WARMING UP STEP2 MASTER・ACTIVE | | 15 | 総合演習 | 25 |
| UNIT4 データの分析 STEP1 WARMING UP STEP2 MASTER・ACTIVE | | 10 | | |
| | | | 合 計 | 105 |

| | | | |
|------------------|---|---|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | | |
| 修得要件 | 以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度） | | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 | |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 | |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・授業で扱う問題は入試の基本的な問題です。解法を暗記するくらい解こう。 ・以下のことを意識し、自分の課題が何かを考えながら学習をすると力がついていきます。 <p>①STEP1、2はインプット学習です。STEP1で公式、STEP2で解法を覚えよう。基本の形なので反復が大切です。</p> <p>②STEP3、4はアウトプット学習です。インプットした公式や解法の活用の仕方を考えることが大切です。</p> | | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|--|----|----|-----|---|
| 教科 | 数学 | 科目名 | 教養数学 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | |
|----------|--|--|-----------------------------|
| 学習目標 | 企業・公務員試験・各種入学試験の内容に触れることで、小学校算数、中学校数学、数学Ⅰ・Ⅱの基礎学力を養う。また、主体的に問題解決に取り組むことを通して、論理的な思考力・説明力を育む。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 一般教養にあたる数学の概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。 | |
| | 思考・判断・表現 | 身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。 | |
| 使用教科書 | | 使用副教材 | 「1日10分」から始める SPI基本問題集(大和書房) |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--|--------|---------------------------------|---|--|
| | 年間学習計画 | 計算問題 四則演算 割合の問題 代入法の問題 | 10 | 場合の数・確率 順列の問題 組合せの問題 確率の問題 第3回考査 |
| 割合と速さの問題 金銭問題 速さの問題 ハジキ問題 食塩水問題 第1回考査 | | 10 | その他 集合の問題 推論の問題 資料の読み取り 図形問題 学年末考査 | 15 |
| グラフの問題 直線の式 放物線の式 読み取り問題 第2回考査 | | 15 | | |
| | 合 計 | | | 70 |

| | | |
|------------------|---|---|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度） | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・1時間ごとにテーマの内容を理解し、そのテーマを問題を解きながら確認していこう。 ・就職試験には問題を解くときの「速さ」と「正確さ」が大事です。常に意識して取り組もう。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|---|--|----|-----|---|
| 教科 | 理科 | 科目名 | 化学(3年) | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 2年次からの「化学」の継続履修である。2年次に「化学」を履修した生徒は、必ず選択すること。 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | |
|----------|---|--|------------------|
| 学習目標 | 化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 化学の基本的な概念や原理・法則についての知識。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能。 | |
| | 思考・判断・表現 | 観察、実験などを行い、自ら問いをたてて科学的に探究する力。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 学びに真摯に取り組むことで、化学的な事物・現象に主体的に関わり、自己調整をしながら科学的に探究しようとする態度。 | |
| 使用教科書 | 第一学習社『高等学校 化学』 | 使用副教材 | 浜島書店『インプレス化学ノート』 |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|---|----------|----|---|---|
| | 第3章 無機物質 | | | 第3節 酸素を含む脂肪族化合物 アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン カルボン酸とエステル・油脂とセッケン |
| 第1節 周期表と元素の性質 元素の分類と性質 化合物の性質と周期表 | | 10 | 第4節 芳香族化合物 芳香族炭化水素 酸素・窒素を含む芳香族化合物 芳香族化合物の分離 | 5 |
| 第2節 非金属元素 水素 18族 17族 無機化学工業 | | 10 | 第5章 高分子化合物 第1節 高分子化合物 | 1 |
| 第3節 典型金属元素 1族元素-アルカリ金属- 2族元素-アルカリ土類金属- 両性を示す典型元素 | 第1回考査 | 10 | 第2節 天然高分子化合物 単糖と二糖、多糖 アミノ酸・タンパク質・核酸 | 4 |
| 第4節 遷移元素 鉄・銅・銀 クロム・マンガン 金属イオンの定性分析 | | 10 | 第3節 合成高分子化合物 高分子化合物の特徴 合成繊維・合成樹脂 高機能高分子化合物 ゴム | 5 |
| 第4章 有機化合物 | | | 学年末考査 | |
| 第1節 有機化合物の特徴と分類 | | 5 | | |
| 第2節 脂肪族炭化水素 | | 5 | 合 計 | 70 |

| | | |
|------------------|--|---|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題(実験レポート)提出等による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|---|--|----|-----|---|
| 教科 | 理科 | 科目名 | 生物 | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 文理系列選択者で、2年次に「生物基礎」を修得している生徒が対象 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | |
|----------|---|--|---------------|
| 学習目標 | 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的で豊かな技能。 | |
| | 思考・判断・表現 | 観察、実験などを行い、唯一解がなくても科学的に最適解を判断する力。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 学びに真摯に取り組むことで、生物や生物現象に主体的に関わり、自己調整をしながら科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度。 | |
| 使用教科書 | 第一学習社『高等学校 生物』 | 使用副教材 | 第一学習社『セミナー生物』 |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|---|---|--|--|-----|
| | 第1章 生物の進化 生命の起源と細胞の進化 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 進化の仕組み | 15 | 第6章 遺伝子の発現調節と発生 遺伝子の発現調節 発生と遺伝子の発現 | 14 |
| 第2章 生物の系統と進化 生物の系統 人類の系統と進化 | 10 | 第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 遺伝子を扱う技術 遺伝子を扱う技術の応用 | 10 | |
| 第3章 細胞と分子 生体物質と細胞 タンパク質の構造と性質 生命現象とタンパク質 | 15 | 第8章 動物の反応と行動 刺激の受容と反応 動物の行動 | 16 | |
| 第4章 代謝 代謝とエネルギー 炭酸同化 異化 | 15 | 第9章 植物の生長と環境応答 動物と環境 植物の一生と植物ホルモン | 15 | |
| 第5章 遺伝情報とその発現 DNAの複製 遺伝子の発現 | 5 | 第10章 生態系のしくみと人間の関わり 個体群と生物群集 生態系の物質生産と消費 生態系と人間生活 | 25 | |
| | 合 計 | | | 140 |

| | | |
|------------------|--|---|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題(実験レポート)提出等による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|--|---------------------------|----|-----|---|
| 教科 | 理科 | 科目名 | 探究理科 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 【文理】選択(大学・医療看護学校 進学希望者対象) | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|--|---|-------|--|--|--|--|
| 学習目標 | 自然の事物・現象に関わり、科学的な見方・考え方を働かせることで、深い学びを実現する。化学基礎、生物基礎で扱う内容等を復習をしつつ、自力で問題を解決するまで粘り強く考え続ける姿勢を育み、思考力・応用力を高める。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目標とする。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 化学基礎・生物基礎で扱う分野についての知識・技能をさらに深め、自力で問題を解決する力をつける。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 観察・実験などを行ったり、応用問題を解いたりして、知識を活用して思考する力を身につける。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 学習内容を身の周りの生活と自ら重ね合わせ、学ぼうとする力。また、学びを自己調整する力や原因がどこにあったかを追究する自己回復力を養う。 | | | | | |
| 使用教科書 | 第一学習社『高等学校 化学基礎』 第一学習社『高等学校 生物基礎』 | | 使用副教材 | 第一学習社『改訂ビーライン化学基礎』 第一学習社『改訂ビーライン生物基礎』 | | | |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|---------|-----------------------------|----|--------------|-----------------------|
| | 化学基礎 第Ⅱ章 物質の変化 ④物質と濃度 | | | 生物基礎 第4章 バイオームの多様性 |
| | | | 第5章 生態系とその保全 | 6 |
| ⑤化学反応式 | 第1回考査 | 15 | 化学基礎の総復習 | 11 |
| ⑥酸と塩基 | | 11 | 生物基礎の総復習 | 12 |
| ⑦酸化還元反応 | 第2回考査 | 9 | | |
| | | | 学年末考査 | |
| | | | 合 計 | 70 |

| | | |
|------------------|--|---|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題(実験レポート)提出等による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 1・2年次に既習した内容を定着するために以下を大切にしてください。 ①授業中に基本的な事項を理解することが大切です。そのために、予習を行い自分が理解できていない点を明確にして授業にのぞむようにしましょう。 ②そして、その不明だった点を授業内で解消しましょう。授業を受けて分からないことがあれば、そのままにせず担当教員に声をかけ解消しましょう。 ③定期考査には十分な準備をして臨んで下さい。特に授業中に扱った問題は、自力で解けるようになるまで何度も挑戦しましょう。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|--|----|----|-----|---|
| 教科 | 保健体育 | 科目名 | 体育 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 必履修 ・ <input type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | |
|----------|---|--|--------------------|
| 学習目標 | 体育の見方・考え方を働かせ、各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、生涯を通じて継続的に運動ができる実践力を身に付ける。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | ・競技に求められる運動特性などを理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける | |
| | 思考・判断・表現 | ・生涯にわたって運動を豊かに継続するため、知識を活用して思考する力 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて自ら問いをたてて探求する力 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ・ルールやマナーを守り、学びに真摯に取り組む力 ・一人一人の違いを認め、他者をリスペクトして協働する力 | |
| 使用教科書 | 現代高等保健体育(大修館書店) | 使用副教材 | 現代高等保健体育ノート(大修館書店) |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|-----------------------|--------|---|----------------------|--------------------------|
| | 年間学習計画 | オリエンテーション・体ならし 体力づくり(ランニング) クラスマッチに向けて 体づくり運動 新体力テストを活用して運動計画を立てる | 8 | 球技 クラスマッチに向けて 体育理論 |
| 選択① 男女混合選択 | | 8 | 豊かなスポーツライフの設計 選択③ | 12 |
| 選択② 男女混合選択 | | 12 | 男女混合選択 | |
| 体育理論 豊かなスポーツライフの設計 | | 4 | | |
| 選択② 男女混合選択 | | 12 | | |
| 合 計 | | | 70 | |

| | | | |
|------------------|--|---|--|
| 履修要件 | 1 授業のルールを守り、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | ・スキルテスト、ゲーム中の動き方 ・筆記テスト(体育理論) | |
| | 思考・判断・表現 | ・「振り返りシート」への記入内容 ・自己や他者・周囲への気付き | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ・欠席、遅刻、忘れ物の回数 ・運動量 ・準備・片付け、他者との協力の様子 | |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | ・実技科目であるため、出席し、積極的に活動することが重要である。運動技能のみならず、服装や集団行動、仲間とのコミュニケーションなど総合的に評価する。 | | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|---|----|----|-----|---|
| 教科 | 保健体育 | 科目名 | 実用スポーツ | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系・ <input type="checkbox"/> 四大理系・ <input type="checkbox"/> 教養・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | | <input type="checkbox"/> 文理・ <input type="checkbox"/> 経ビ・ <input type="checkbox"/> もの・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | | | |
|----------|--|---|-------|--|--|
| 学習目標 | 体育の見方・考え方を働かせ、様々なスポーツの高度な技術を身につけるとともに、社会生活においてスポーツリーダーとして活躍する資質を身につける。 | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | ・ニューススポーツ、パラスポーツを含め、様々なスポーツのルールや競技特性を理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける | | | |
| | 思考・判断・表現 | ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて自ら問いをたてて探求する力 ・仲間とのかかわりの中で、他者の声のすばらしさに気づく力 | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ・ルールやマナーを守り、学びに真摯に取り組む力 ・一人一人の違いを認め、他者をリスペクトして協働する力 | | | |
| 使用教科書 | | | 使用副教材 | | |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--------|---|----|--|-----|
| 年間学習計画 | 集団行動 整列、歩行、隊列変換の仕方 球技 馴染みのないスポーツに挑戦 (ハンドボール など) ニューススポーツ① 既存のスポーツから派生したスポーツに挑戦 (タグラグビー、ユニホック、バブルサッカー、 フロアカーリング、スポーツ鬼ごっこ など) ニューススポーツ② 新たな特性を持つスポーツに挑戦 (キンボール、アルティメット など) | 70 | ニューススポーツ② 新たな特性を持つスポーツに挑戦 (キンボール、アルティメット など) パラスポーツ パラスポーツに挑戦 (シッティングバレーボール、ブラインドサッカー、 ゴールボール など) 新しいスポーツを作ろう スポーツの考案、ルールブック作成 | 70 |
| | 合 計 | | | 140 |

| | | | |
|------------------|--|------------------------------------|------|
| 履修要件 | 1 授業のルールを守り、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | ・スキルテスト、ゲーム中の動き方 ・筆記テスト | |
| | 思考・判断・表現 | ・「振り返りシート」への記入内容 ・自己や他者・周囲への気付き | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ・欠席、遅刻、忘れ物の回数 ・準備・片付け、他者との協力の様子 | ・運動量 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | ・実技科目であり、体育よりも多くの種目を扱う。得手不得手がある中で、ただ出席するだけでなく、スポーツリーダーを目指す者として、より積極的に活動することが重要である。運動技能のみならず、服装や集団行動、仲間とのコミュニケーションなど総合的に評価する。 | | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-------------------------------|--|----|-----|---|
| 教科 | 音楽 | 科目名 | 音楽Ⅲ | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 音楽Ⅱを修得していること。 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 | | <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | |
|----------|--|---|----|
| 学習目標 | 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 | |
| | 思考・判断・表現 | 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 | |
| 使用教科書 | Joy of Music (教育芸術社) | 使用副教材 | なし |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--------|--|-------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|
| | 【歌唱】 星めぐりの歌 ロマンチストの豚 ほたるこい 【器楽】 ギター弾き歌い 【鑑賞】 ミュージカル「レ・ミゼラブル」 ロック「WHO ARE THE BEATLES？」 | 【歌唱】 星めぐりの歌 ロマンチストの豚 ほたるこい | 12 | 【歌唱】 初恋 Michelle この道 |
| | | | 【器楽】 ピアノ弾き歌い ピアノ連弾 | 12 |
| | | 8 | 【鑑賞】 西洋音楽 世界の諸民族の音楽 日本の伝統音楽 | 8 |
| | | 12 | 【総合】 コンサートを開こう | 8 |
| | | | 合 計 | 70 |

| | | |
|------------------|--|-------------------------------------|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての筆記試験・実技試験を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。 |
| | 思考・判断・表現 | 授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 授業への取り組み及び、振り返りシートによる。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査は実施しないが、授業内で单元ごとに試験を実施する。 ・歌唱や器楽等の実技は練習を積み重ねることが大切である。欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組むこと。 ・普段から自国や諸外国の文化や歴史について関心を持ち、自身の感性を磨くこと。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-------------------------------|---|----|--|---|
| 教科 | 音楽 | 科目名 | 音楽表現基礎 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 選択条件はないが、専門的な内容を扱うこともあるので音楽を必要とする進学者は履修することが望ましい。 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 <input type="checkbox"/> 四大理系 <input checked="" type="checkbox"/> 教養 | | <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input type="checkbox"/> 文理 <input type="checkbox"/> 経ビ <input type="checkbox"/> もの | | <input checked="" type="checkbox"/> 全員 | |

| | | | | |
|----------|--|---|-------|----|
| 学習目標 | 音楽系大学・短大・専門学校や保育・福祉など、音楽を必要とする進学に対応出来る技能と知識を身につける。 | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 音感や読譜力など、すべての分野の音楽に共通する人間と世界についての豊かな知識と技能。 | | |
| | 思考・判断・表現 | 音楽理論を理解したうえで楽譜を正しく読み、それを歌唱や器楽で表現し、知識を生かして試行する力。 | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 分からないところや苦手なところをそのままにせず、自ら質問したり、上手いいかない原因を追求する学びを自己調整する力。 | | |
| 使用教科書 | なし | | 使用副教材 | なし |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|---|--------|-----------|---|------------------------------|
| | 年間学習計画 | オリエンテーション | 1 | 【音楽理論】 音階 調性 コードネーム |
| 【音楽理論】 楽譜の書き方 譜表、拍子、音符と休符 音名 音程 | | 合計 15 | | |
| 【ソルフェージュ】 コールユーブンゲン リズム視唱 新曲視唱 | | | 【ソルフェージュ】 コールユーブンゲン リズム視唱 新曲視唱 | |
| 【実技演習】 キーボード 童謡弾き歌い、バイエル等 | | 20 | 【実技演習】 ハンドベル | 15 |
| | 合 計 | | | 70 |

| | | |
|------------------|---|-------------------------------------|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての筆記試験・実技試験を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。 |
| | 思考・判断・表現 | 授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 授業への取り組み及び、振り返りシートによる。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査は実施しないが、授業内で单元ごとに試験を実施する。 ・分からないことをそのままにせず、質問したり自ら調べて理解に努めること。 ・実技は練習を積み重ねることが大切である。欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組むこと。 ・音楽系及び保育系進学希望者は、ピアノの個人レッスンの受講を推奨する。保育士や幼稚園教諭の採用試験におけるピアノの実技試験では一定程度のレベルが求められるため、なるべく早いうちから対策をすることが望ましい。相談にも乗ります。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|--|---------------|----|-----|---|
| 教科 | 芸術 | 科目名 | 美術Ⅲ | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 美術ⅠⅡを修得した者に限る | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|--|--|-------|----|--|--|
| 学習目標 | 美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせることで深い学びを実現する。特に、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 美術の役割や意義を理解し、自分の価値観や美しいと感じる力に照らして作品を制作したり読み取る過程で、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 独創的な主題を生成する経験を通して、自ら問いを立てて探究する力を養う。個性を生かして創造的に構想を練り、他者に考察の確信を伝える力を養う。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 主題に合った表現方法を工夫して、創造的に表現できるよう試行錯誤を続ける力を養う。 | | | | | |
| 使用教科書 | 高校生の美術3(日本文教出版) | | | 使用副教材 | なし | | |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|-------------------------------------|--------|-----------|----------------|----------|
| | 年間学習計画 | オリエンテーション | 1 | 卒業制作(続き) |
| 絵画 春をみつける (鉛筆と透明水彩で細密に描く/切り絵) | | 5 | 制作 鑑賞 展示 | |
| グループ制作 文化祭へ向けて企画・制作する | | 10 | | |
| 卒業制作準備 鑑賞(美術の広がりを知る) 卒業制作企画 | | 6 | | |
| 卒業制作 制作 中間発表 | | 13 | | |
| | 合 計 | | | 70 |

| | | |
|------------------|--|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 完成した課題の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 思考・判断・表現 | 授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・自分自身で考え、常により良い表現を求めて試行錯誤しよう。 ・上手い/下手い/わからない時こそ、考えること・行動すること・続けよう。 ・自分以外の人の表現や助言にも心を傾けよう。 ・作品は必ず完成させたものを提出すること。作品未提出者は、補習を行う。 ・制作物は展示を行います。他の人に見てもらいたいと思えるよう、こだわりをもった取り組みをしよう。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|-------------------------------|--|----|-----|---|
| 教科 | 芸術 | 科目名 | 造形 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 美術系の進路を希望している者は履修することがのぞましい。 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 <input type="checkbox"/> 四大理系 <input checked="" type="checkbox"/> 教養 | | <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input type="checkbox"/> 文理 <input type="checkbox"/> 経ビ <input type="checkbox"/> もの <input checked="" type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|---|-------|----|--|--|
| 学習目標 | 美術系大学・短大や各種デザイン系の美術専門学校への進学者がその分野に必要な基本的知識・能力を身につける。生活と美術のつながりを理解する。 | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 生活の中の造形的な要素や工夫を知り、正しく形を捉えて表現する活動を通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 生活の中の造形的な要素や工夫をみつけ、知識を活用して思考する力を養う。 | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 用途や技法に合った表現方法を工夫して、創造的に表現できるよう試行錯誤を続ける力を養う。 | | | | |
| 使用教科書 | なし | | 使用副教材 | なし | | |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|---|--------|-----------|--|------|
| | 年間学習計画 | オリエンテーション | 1 | [選択] |
| [選択] ・素描 (木炭またはえんぴつデッサン) ・模刻 (モチーフそっくりの立体を制作する) ・テキスタイル (Tシャツのデザイン・染色を行う) | | 30 | ・演習 (素描・平面構成・彫塑) ・紙工芸 (張り子のオリジナル起き上がりこぼし制作) | |
| [選択] ・平面構成 (矩形、直線、曲線で平面構成する) ・陶芸 (玉作り・板作り・ひもづくりで陶器を制作) | | 14 | | |
| 合 計 | | | 70 | |

| | | |
|------------------|--|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 完成した課題の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 思考・判断・表現 | 授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・自分自身で考え、常により良い表現を求めて試行錯誤しよう。 ・上手くない時こそ、考えること・行動することを続けよう。 ・自分以外の人の表現や助言にも心を傾けよう。 ・作品は必ず完成させたものを提出すること。作品未提出者は、補習を行う。 ・制作物は展示を行います。他の人に見てもらいたいと思えるよう、こだわりをもった取り組みをしよう。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|--|---|----|-----|---|
| 教科 | 外国語 | 科目名 | 論理・表現III | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 論理・表現IIを履修していること | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系・ <input type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理・ <input type="checkbox"/> 経ビ・ <input type="checkbox"/> もの・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|-------|--|--|--|
| 学習目標 | 外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くことの言語活動を通して、文法や語彙への理解を深めるとともに、場面や目的、状況に応じて情報や考えを的確に理解したり表現したり伝えあったりする力や態度を身につける。 | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くことの言語活動を通して、論理構成や展開について理解を深め、コミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 場面や目的、状況に応じて、論理の構成や展開についての知識を活用して、外国語で情報や考えを的確に理解したり表現したり伝えあったりする力を身につける。 | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 聞き手や読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語でのコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。 | | | | |
| 使用教科書 | APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION III (開隆堂出版) | | 使用副教材 | 四訂版 [データ分析] 大学入試 アップグレード UPGRADE 英文法・語法問題 (教研出版) | | |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 | |
|---|--------|--|--|---------------------------------|----|
| | 年間学習計画 | Lesson 1 What Are You Going to Do during the Golden Week? | 5 | Lesson 7 My Specialty | 5 |
| Lesson 2 What Do You Want to Do in the Future? | | 5 | Lesson 8 My Special People and Places | 5 | |
| Lesson 3 Suggest a New Style of Traveling | | 5 | Lesson 9 Paragraph Writing | 5 | |
| | | | 第1回考査 | 第3回考査 | |
| Lesson 4 Communicating Your Requests | | 5 | Lesson 10 Presentation | 5 | |
| Lesson 5 Thank You for Your Support | | 5 | パフォーマンステスト | 5 | |
| Lesson 6 How to Complain Politely | | 5 | Lesson 11 Discussion | 5 | |
| パフォーマンステスト | | 5 | Lesson 12 Debate | 5 | |
| | | | 第2回考査 | 第4回考査 | |
| | | | | | |
| | | | | 合 計 | 70 |

| | | | |
|------------------|---|-------------------------------------|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。 | | |
| 修得要件 | 1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。 | |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査、パフォーマンステストとアセスメント(振り返りシート)による。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。 | |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> 辞書ないしそれに類する機能を有する器具を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べる。 積極的に英語を使った表現を模索し、また自他のことを理解したりしようとする。 教科書の予習・復習や定期的実施する単語テストなどに向けて、学習習慣の確立および継続的な改善をすること。 | | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|--|----|----|-----|---|
| 教科 | 外国語 | 科目名 | 探究英語 | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|--|--|-------|--|--|--|--|
| 学習目標 | 外国語でのコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせて、四技能五領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、CEFRのA1相当の英語の語彙、文法、表現、音声についての知識技能を身につけるとともに、身近な話題から世界へと視野を広げながら自ら問いを立てて学びを深める姿勢を養う。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 外国語の語彙、文法、英語の音についての知識や、CEFRのA1レベルに相当する各種検定に対応できる力。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 語彙、文法、表現、音声など、活動に必要な情報を整理、判断して活用する力。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 自身の学びを観察、調整する力。また、学び得た知識技能がどのように活用できるかを考察する力。 | | | | | |
| 使用教科書 | Tetra 1,2 4技能対応総合問題集 (啓隆社) | | 使用副教材 | | | | |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--|--------|--|---|---|
| | 年間学習計画 | Tetra1 4技能対応総合問題集 Unit 1～8 不定詞～現在進行形 情報検索,Eメール,評論文 | 30 | Tetra2 4技能対応総合問題集 Unit 1～7 時間を表す表現～単位を表す表現 会話文,Eメール,評論文,物語文 |
| Unit 9～15 want O to do～分詞の後置修飾 物語文, 概要把握, エッセイ パフォーマンステスト① 発表 | | 40 | Unit 8～15 仮主語～受動態 概要把握,評論文,Eメール パフォーマンステスト② やりとり | 40 |
| | | | 合計 | 140 |

| | | |
|------------------|--|-------------------------------------|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査、パフォーマンステスト、ライティングによる英作文課題による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、及びアセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> 辞書を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 教科書の予習・復習や定期的実施する小テストなどに向けて、学習習慣を確立すること。 配布される教材を、その目的や内容によって整理、保管し、かつ積極的に参照すること。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|--|----|----|-----|---|
| 教科 | 外国語 | 科目名 | 教養英語 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | |
|----------|--|---|--|
| 学習目標 | 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、社会的話題に関するニュースを聞いたり読んだりすることで、社会事象への興味関心を高める。また、扱う題材について他者とやり取りしたり、自分の考えを発表することができる。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 扱う題材に関する語彙や、文化に関する知識を身につけるとともに、それらを用いて自分の考えを表現することができる力を身につける。 | |
| | 思考・判断・表現 | 学んだ知識・技能をもとに、目的や場面、状況などに応じて相手に伝わりやすい表現を工夫したり、相手が伝えたいことを理解したりできる力を身につける。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図る力を身につける。 | |
| 使用教科書 | Watching NEWS (2025～2026)(浜島書店) | 使用副教材 | |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--|--------|--|-------|--|
| | 年間学習計画 | Lesson 1 Javelin Thrower Kitaguchi Haruka | 第1回考査 | Lesson 7 Japan Team Will Play in Soccer World Cup |
| Lesson 2 Pyramids and the Nile | | Lesson 8 Generative AI | | |
| Lesson 3 Flower Artist from Denmark | | Lesson 9 Tug-of-War Tradition in Okinawa | | |
| Lesson 4 Wonders of Tasmania | | Lesson 10 Mixed Culture in Spain | | |
| Lesson 5 Street Artist Banksy | | Lesson 11 Recycling in Edo | | |
| Lesson 6 Mt. Fuji and Its Cultural Importance | | Lesson 12 Nihon Hidankyo Receives the Nobel Peace Prize | | |
| | | 第2回考査 | | 学年末考査 |
| | | 35 | 合 計 | 35 |
| | | | | 70 |

| | | | |
|------------------|---|---------------------------------------|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。 | | |
| 修得要件 | 1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査、課題による。 | |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査、課題、パフォーマンステストによる。(スピーキング・ライティング) | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。 | |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 ・ペアワーク、グループワークではメンバーと協力し、積極的に取り組むこと。 ・積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 | | |

入力時の留意点

書式 ■セル幅 1.88(20ピクセル) ■印刷範囲設定 A1～AI62を設定しています

■文字サイズ 文章入力セルは9.5ポイント

■履修区分 どちらかに☑を入れてください

■対象者 進路・系列別にしめしていますが、**必ず**どれかに☑を入れてください
(複数選択可)

■学習目標 学習指導要領を参考にしてください
ただし、**生徒がどの様な力をつける**という目標にしてください

■目指す資質・能力 生徒にどの様な力をつけさせるか(～する力と記載)
「主体的に学習に取り組む態度」に『自己回復力』や『自己効力感』
を入れても構いません
※現行(旧課程)の場合も3観点での記載とします

■年間学習計画 単元ごとの詳細な時間数までは結構です

予定する定期考査の位置にテキストボックスを移動して活用ください

第1回考査
第2回考査
第3回考査
第4回考査
学年末考査

※行の追加・削除をされた場合は、合計時間数の計算範囲を確認してください

■評価の方法 上記「目指す資質・能力」を何で評価するか明示します

■学習にあたっての注意とアドバイス
どの様に授業に臨むべきか、各科からのアドバイスを記載します
受験に向けた学習の仕方なども具体的に記載ください

チェックボックス



| | | | | | | | |
|------|--|-----|--|----|----|-----|---|
| 教科 | 外国語 | 科目名 | 国際文化 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | |
|----------|---|--|-------|
| 学習目標 | 英語で書かれた物語に音声を通して親しむことで、英語の音と単語・英文を結びつけ、表現力を向上させる。さらに外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国文化に親しんだり、物語で登場する英語のリズムや抑揚、独特な言い回しを体感することで、外国語を学ぶ楽しさを実感する。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 物語中に登場する単語や文法の意味、機能がわかり、英語が理解できる力を身につける。 | |
| | 思考・判断・表現 | 学んだ表現を使って、英語で自己表現できる力を身につける。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | グループ内で他者と協調しながら、主体的に課題に取り組もうとする態度。 | |
| 使用教科書 | AUDIO BOOK Sherlock Holmes 耳で読む LISTENING LIBRARY(桐原書店) | | 使用副教材 |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|---|--------|--|-----|--------------------------------------|
| | 年間学習計画 | Chapter 1～2 名詞, 基本動詞 基本動詞を使った多様な英語表現を学ぶ | 35 | Chapter 7～8 受動態 複雑な構文を読み解く |
| Chapter 3～4 時制 英語のリズム・抑揚に親しむ 基本的な会話表現を学ぶ | | Chapter 9～10 名詞の修飾(関係代名詞など) 句・節を効果的に用いる方法を学ぶ | | |
| Chapter 5～6 前置詞 場所を表す表現を学ぶ | | Chapter 11～12 仮定法・丁寧表現 さまざまな表現形式と特徴について考える | | |
| | | 学年末考査 | | |
| | | | 合 計 | 35 |

| | | |
|------------------|--|-------------------------------------|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査、パフォーマンステスト、ライティングによる英作文課題による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、及びアセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> 辞書を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 授業の復習や定期的実施する小テストなどに向けて、学習習慣を確立すること。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|--|----|----|-----|---|
| 教科 | 家庭 | 科目名 | 保育基礎 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | |
|----------|---|---|-------------------------|
| 学習目標 | 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | |
| | 思考・判断・表現 | 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 | |
| 使用教科書 | 保育基礎 | 使用副教材 | ニュービジュアル家庭科資料+成分表(実教出版) |

| | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--|--------|-----------|-----------------------------------|--------|
| | 年間学習計画 | オリエンテーション | 1 | 子どもの文化 |
| 子どもの保育 保育の意義 保育方法 保育の環境 | | 11 | 子どもの文化の意義と支える場 子どもの遊びと表現活動 | |
| 子どもと発達 子どもの発達特性 子どものからだの発達 子どもの心の発達 | | 11 | 子どもの福祉 子ども観 子どもの福祉 子育て支援 | 12 |
| 子どもの生活 子どもの生活と養護 生活習慣の形成 健康管理と事故防止 | | 11 | 保育園実習 | 13 |
| 合 計 | | | | 70 |

| | | |
|------------------|--|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 考査と提出物の合計点が、年間で全体の平均の2分の1以下にならないこと。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出・実習態度による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出・実習態度およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよび生活への関心、アセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 欠席をしない。 自分で課題意識を持ち、毎時間の授業に集中して取り組もう。 どんな生活を作りたいか想像しながら取り組もう。 提出物は期限を守り、必ず提出する。 授業内容の定着のための努力をする。 (施設設備の都合上、実習の実施時期が変更になる可能性もある) | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|--|----|----|-----|---|
| 教科 | 家庭 | 科目名 | 生活文化(学校設定科目) | 年次 | 3年 | 単位数 | 3 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | |
|----------|--|---|-------------------------|
| 学習目標 | ・生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して衣食住に関わる生活文化の背景について理解できる力や主体的に生活を創造するための知識や技術の習得。 ・地域の生活文化を知り、生活に活かす能力を養う。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解し、技術を活用できる力を養う。 | |
| | 思考・判断・表現 | 生活を主体的に営むために知識を活用して思考する力、根拠に基づいて理論的に改善、解決しようとする力を養う。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 生活を主体的に考え、学んだことが未来につながることを想像する力、周囲と協働してよりよい生活を創造するための実践的な態度を養う。 | |
| 使用教科書 | なし | 使用副教材 | ニュービジュアル家庭科資料+成分表(実教出版) |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--------|------------|----|----------|----|
| | オリエンテーション | 1 | 住宅の文化を知る | 26 |
| | 衣食住の歴史 | 5 | 作品製作 | 15 |
| | 作品製作 | 25 | 行事食・郷土食 | 15 |
| | ひとり暮らしの衣食住 | 15 | 1年間のまとめ | 3 |
| 合 計 | | | 105 | |

| | | | |
|------------------|--|--|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 評価の合計点が、年間で全体の平均の2分の1以下にならないこと。 | | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 課題提出・実習態度による。 | |
| | 思考・判断・表現 | 課題提出・実習態度およびアセスメント(振り返りシート)による。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよび生活への関心、アセスメント(振り返りシート)による。 | |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | 欠席をしない。 自分で課題意識を持ち、毎時間の授業に集中して取り組もう。 どんな生活を作りたいか想像しながら取り組もう。 提出物は期限を守り、必ず提出する。 授業内容の定着のための努力をする。 (施設設備の都合上、実習の実施時期が変更になる可能性もある) | | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|------|--|----|-----|---|
| 教科 | 工業 | 科目名 | 実習 | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | ものづくり系列選択者 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 <input type="checkbox"/> 四大理系 <input type="checkbox"/> 教養 <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | | | <input type="checkbox"/> 文理 <input type="checkbox"/> 経ビ <input checked="" type="checkbox"/> もの <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | | |
|----------|--|---|--|-------|--------|--|--|
| 学習目標 | 工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技術 | 工業の各分野に関する技術を実際の作業を通して総合的に理解するとともに、関連する技術力を身に着ける。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力をつける。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 | | | | | |
| 使用教科書 | 機械実習1・2(実教出版) | | | 使用副教材 | 自作プリント | | |

| | 前 期 | | 時間 | 後 期 | | 時間 |
|--------|--------|---------------------|----|---------|-----------|-----|
| | 年間学習計画 | オリエンテーション 実習の心構え | | 4 | マイコン制御実習Ⅱ | |
| 整流平滑回路 | | | 14 | 情報デザイン | | 18 |
| 3D CAD | | | 14 | 電気工事实習Ⅱ | | 16 |
| 自動加工機 | | | 16 | シーケンス制御 | | 18 |
| フライス | | | 20 | | | |
| | | | | 合計 | | 140 |

| | | | | | | | |
|------------------|---|-----------------------------------|--|--|--|--|--|
| 履修要件 | 1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。 | | | | | | |
| 修得要件 | 1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施した全ての実習のレポートを期限内に提出すること。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | | | | | | |
| 評価の方法 | 知識・技術 | 作品の完成度、レポートなどで知識・技術を評価する。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | レポート提出時の口頭試問など思考・判断・表現を評価する。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、実技への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。 | | | | | |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業へ取り組むことが重要です。 毎時間ごとに実習が進んでいくので、欠席した場合には、次の授業までに追実習を受けるように申し出る こと。 全ての実習に出席し、レポートが期限までに出されることで成績が認定される。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|--------|--|----|-----|---|
| 教科 | 工業 | 科目名 | 工業情報数理 | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 3年全系列 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | | | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|--|--|-------|-------------------------------|--|--|
| 学習目標 | 工業の見方・考え方を働かせ、工業分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を身に付ける。情報技術に関する倫理観を考え、諸課題を解決する力を養う。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技術 | 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解する力を育成する | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 情報化社会の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的根拠に基づき解決する力を養う | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う | | | | | |
| 使用教科書 | 工業情報数理新訂版(実教出版) | | | 使用副教材 | 2級情報技術検定試験標準問題集:(全国工業高等学校長協会) | | |

| 年間学習計画 | 前 期 | | 時間 | 後 期 | | 時間 |
|--------------------|----------------|---------|-------------------------|---------------------|-----------|----|
| | 第1章 産業社会と情報技術 | 情報と情報社会 | 3 | 第6章 デジタル化とハードウェア | 数値・文字の表し方 | 5 |
| | 情報システムとデータの活用 | 3 | | 論理回路の基礎 | 5 | |
| | 情報社会の権利とモラル | 2 | | 情報のデジタル化・処理装置の構成と動作 | 5 | |
| | セキュリティ管理 | 2 | 第7章 ネットワーク | ネットワークの構成 | 5 | |
| 第2章 ソフトウェアやサービスの利用 | コンピュータの基本操作 | 1 | | ネットワークの通信技術 | 5 | |
| | ソフトウェアの基礎 | 2 | 第8章 コンピュータ制御 | コンピュータ制御の概要 | 6 | |
| | アプリケーションソフトウェア | 2 | | 制御プログラミング | 6 | |
| 第3章 プログラミングの基礎 | プログラミング言語 | 10 | | 組込み技術 | 6 | |
| | プログラムのつくり方 | 10 | 第9章 情報デザインを活用した問題の発見・解決 | 問題の発見・解決 | 2 | |
| | 流れ図とアルゴリズム | 12 | | 情報デザイン | 2 | |
| 第5章 Cによるプログラミング | Cの特徴 | 4 | | プレゼンテーションと問題解決の評価 | 2 | |
| | 四則計算のプログラム | 4 | 第10章 数理処理 | 単位と数理処理 | 4 | |
| | 選択処理 | 6 | | 実数と数理処理 | 4 | |
| | 繰返し処理 | 6 | | モデル化とシミュレーション | 4 | |
| | 配列 | 6 | | 合 計 | 140 | |
| | 関数 | 6 | | | | |

| | | |
|------------------|---|--|
| 履修要件 | 1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受検し、課題等の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技術 | 定期考査・課題提出およびルーブリックによる。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出・アセスメント(振り返りシート)およびルーブリックによる。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で説明された事柄と関係深いことを身のまわりや日常の中に探し出し、再確認をする。 ・授業内容の定着と、活用を実践するため、情報技術検定(2級)を受検する。情報分野の知識理解を深める。 ・授業を単体の科目でとらえるのではなく他教科や科目と関連付けて学習する態度をもつ。(例：工業技術基礎・数学科目・国語科目など) | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|------|--|----|-----|---|
| 教科 | 工業 | 科目名 | 製図 | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | ものづくり系列選択者で、継続して系列選択する者 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | | | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|--|--|-------|---|--|--|
| 学習目標 | 工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通し、工業の各分野に必要な能力と態度を育てることを目指す。製図する事が、自身の考えを他者に伝える技術・道具であることを理解し、図面を通して他者と協働できる力をつけることを目指す。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技能 | 製図について日本産業規格や国際標準化機構規格の内容を知り、正しい作図や記述する力を身に付ける。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 製作図や設計図に関する課題を見つけ、工業に携わる者として根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 身近な製品の作図や図面から製作情報を読み取りについて振り返り、技術向上を目指す自己調整力を身に付ける。 | | | | | |
| 使用教科書 | 製図(実教出版) | | | 使用副教材 | 基礎製図検定問題集(全国工業高等学校長協会) 製図 ワークノート(実教出版) | | |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--------|---|----|---|---|
| | 製図の基礎 製図を学ぶにあたって 製図用具 線(種類、用法) 図面に用いる文字 投影法 手書き製図の基礎 立体を平面で表す方法 平面を立体で表す方法 投影図の不足線の追記 簡単な断面図の書き方 補助投影図の書き方 展開図 基礎製図検定の対策と受験 対策 基礎製図検定を受験する | | 6 | 図面の表し方 大きさの表しかた 平面曲線の表しかた 特殊な寸法の記入 表面粗さなどの状態の表しかた 公差の表しかた 幾何公差 第3回考査 |
| | | 42 | 各種の製図 機械製図、住宅製図、屋内配線図 電気回路、シーケンス制御用展開接続図 配管図、フローシート など | 20 |
| | | | CAD製図 CADシステム 二次元CAD 三次元CAD CADシステムの利用 学年末考査(課題提出) | 30 |
| | | 16 | | |
| | | | 合 計 | 140 |

| | | |
|------------------|---|---------------------------------------|
| 履修要件 | 1. 指定する教材やタブレットを持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1. 上記の履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受験し、すべての課題の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査および課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み(態度)、アセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | ・授業時数が多くなるので、欠席した場合には、次の授業までに課題ができるように行動すること。 ・提出期限に作品が間に合わなかった場合には、その単元の評価はできないので、十分に注意する事。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-------------------------------|--|--|-----------------------------|-----------------------------|--|
| 教科 | 工業 | 科目名 | 電力技術 | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | ものづくり系列選択者 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 | <input type="checkbox"/> 四大理系 | <input checked="" type="checkbox"/> 教養 | <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | <input type="checkbox"/> 文理 | <input type="checkbox"/> 経ビ | <input checked="" type="checkbox"/> もの <input type="checkbox"/> 全員 |

| | | | | | | | |
|----------|--|--|--|-------|-----------------------|--|--|
| 学習目標 | 工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、電力を供給する技術を活用した工業生産に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技術 | 電力技術について電力の供給と利用技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に着ける力。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 電力の供給と利用技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工場の発展に主体的かつ協働的に取り組む力。 | | | | | |
| 使用教科書 | 電力技術1・2 (実教出版) | | | 使用副教材 | 電力技術1・2(演習ノート)、自作プリント | | |

| 年間学習計画 | 前期 | | 後期 | |
|--------|---------------------------|----|----------------|-----|
| | | 時間 | | 時間 |
| 年間学習計画 | 第1章 発電 | | 第7章 電気加熱 | |
| | 1節 エネルギー資源と電力 | 2 | 1節 電熱の基礎 | 5 |
| | 演習 | 1 | 2節 各種の電熱装置 | 5 |
| | 2・3・4節 水力・火力・原子力発電 | 12 | 3節 電気溶接 | 4 |
| | 演習 | 6 | 演習 | 3 |
| | 5・6節 再生可能・その他のエネルギーによる発電 | 5 | 第8章 電力の制御 | |
| | 第2章 送電 | | 1節 制御の概要 | 3 |
| | 1・2・3節 送電方式・送電線路・送電と変電の運用 | 12 | 2節 シーケンス制御 | 5 |
| | 演習 | 6 | 3節 フィードバック制御 | 5 |
| | 第4章 屋内配電 | | 4節 コンピューター制御 | 5 |
| | 1節 自家用電気設備 | 6 | 5節 制御の活用例 | 5 |
| | 演習 | 4 | 演習 | 4 |
| | 2節 屋内配線 | 6 | 第11章 さまざまな電力応用 | |
| | 演習 | 4 | 1節 ヒートポンプ | 3 |
| | 第5章 屋内配電 | | 2節 加熱調理機 | 3 |
| | 1節 電気事業法 | 3 | 3節 静電気現象の応用 | 4 |
| | 演習 | 2 | 4節 超音波とその応用 | 4 |
| | 2節 その他の電気関係法規 | 3 | 5節 自動車への応用 | 4 |
| | 演習 | 2 | 演習 | 4 |
| | | | | 140 |

| | | |
|------------------|---|-----------------------------------|
| 履修要件 | 1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受検し、課題等の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技術 | 定期考査・課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業において、ノート・プリントをしっかりと取ること。 ・提出物や課題は必ず期日までに仕上げる。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|--|--|----|-----|---|
| 教科 | 工業 | 科目名 | 機械設計 | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | ものづくり系列選択者 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | | |
|----------|---|---|-------|--------------|--|--|--|
| 学習目標 | 工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、器具や機械などの設計に必要な資質・能力を育成することを目指す。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技術 | 機械設計について機械に働く力、材料及び機械装置の要素を踏まえて理解するとともに、関連する技術力を養う力。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 機械設計に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 安全で安心な機械を設計する力の向上を目指して自ら学び、情報技術や環境技術を活用した学習に主体的かつ協働的に取り組む力。 | | | | | |
| 使用教科書 | 機械設計1新訂版(実教出版) 機械設計2新訂版(実教出版) | | 使用副教材 | 授業担当者が作成した資料 | | | |

| 年間学習計画 | 前 期 | | 時間 | 後 期 | | 時間 |
|---------------|------------|--------|----------------|-----------|-----|----|
| | 第1章 機械と設計 | 機械のしくみ | 3 | 環境に配慮した設計 | | 4 |
| | 機械設計 | 3 | 第5章 ねじ | | 4 | |
| 第2章 機械に働く力と仕事 | 機械に働く力 | 12 | ねじの用途と種類 | | 6 | |
| | 運動 | 8 | ねじに働く力と強さ | | | |
| | 力と運動の法則 | 4 | 第8章 リンク機構・カム機構 | | | |
| | 仕事と動力 | 4 | 機械の運動 | | 1 | |
| | 摩擦と機械の効率 | 6 | リンク機構 | | 6 | |
| 第3章 材料の強さ | 材料に加わる荷重 | 2 | カム機構 | | 4 | |
| | 引張・圧縮応力 | 8 | 間欠運動機構 | | 2 | |
| | せん断荷重 | 6 | 第9章 歯車 | | | |
| | 温度変化による影響 | 4 | 回転運動の伝達 | | 3 | |
| | 材料の破壊 | 4 | 歯車の種類 | | 1 | |
| | はりの曲げ | 12 | 平歯車の基礎 | | 6 | |
| | ねじり | 4 | 平歯車の設計 | | 6 | |
| | 座屈 | 4 | その他の歯車 | | 2 | |
| 第4章 安全・環境と設計 | 安全・安心と設計 | 4 | 歯車電動装置 | | 2 | |
| | 倫理観を踏まえた設計 | 1 | 第10章 ベルト・チェーン | | | |
| | | | ベルトによる伝動 | | 2 | |
| | | | チェーンによる伝動 | | 2 | |
| | | | 合計 | | 140 | |

| | | |
|------------------|--|--|
| 履修要件 | 1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受検し、課題等の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技術 | 定期考査・課題提出およびルーブリックによる。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出・アセスメント(振り返りシート)およびルーブリックによる。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | ・毎時間の授業において、ノートをしっかりと取り、内容について理解をすること。 ・課題をよく確認し、繰り返し演習すること。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|---|--|-----|-----|---|
| 教科 | 商業 | 科目名 | 財務会計 I | 年次 | 3 年 | 単位数 | 6 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 経営ビジネス系列選択者で、2年次に「原価計算」を履修していることが望ましい。 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | |
|----------|--|--|---|
| 学習目標 | ビジネスの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会社情報の提供と活用に必要な資質・能力を身につける。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技術 | 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識と技術。 | |
| | 思考・判断・表現 | 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見い出し、科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 会計責任を果たす力の向上を目指して自らを学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度。 | |
| 使用教科書 | 新財務会計 I (実教出版) | 使用副教材 | 最新段階式 簿記検定問題集 全商1級会計(実教出版)・全商簿記実務検定模擬試験問題集 1級会計(実教出版) |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|------------|--|----|--|----|
| | 第1編 財務会計の基礎 企業と会計 企業会計制度と会計法規 第2編 貸借対照表 貸借対照表のあらまし 資産の意味・分類・評価 流動資産(当座資産) 流動資産(棚卸資産・その他の流動資産) 固定資産(有形固定資産) 固定資産(無形固定資産) 固定資産(投資その他の資産) 第1回考査 負債の意味と分類 流動負債 固定負債 純資産の意味と分類 資本金 資本剰余金 利益剰余金 自己株式 貸借対照表の作成 第2回考査 | 45 | 第3編 損益計算書 損益計算書のあらまし 損益計算の意味と基準 売上高 売上原価、販売費および一般管理費 営業外収益・営業外費用 特別利益・特別損失 損益計算書の作成 その他の財務諸表 第4編 財務諸表の活用 財務諸表のディスクロージャー 第3回考査 財務分析 第5編 連結財務諸表 連結財務諸表のあらまし 連結財務諸表補作成(1) 連結財務諸表補作成(2) 学年末考査 | 45 |
| 合 計 | | | 210 | |

| | | |
|------------------|--|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これがかかった」を重ねよう。 ・全商簿記実務検定試験1級会計も受験します。知識の定着と検定試験の合格を目指そう。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|--|-------------|----|-----|---|
| 教科 | 商業 | 科目名 | ソフトウェア活用 | 年次 | 3年 | 単位数 | 4 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 経営ビジネス系列選択者 | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | |
|----------|---|---|-----------------------------|
| 学習目標 | ビジネスの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を身につける。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技術 | 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識と技術。 | |
| | 思考・判断・表現 | 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 企業活動を改善する力の向上を目指して自らを学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度。 | |
| 使用教科書 | ソフトウェア活用(実教出版) | 使用副教材 | 全商情報処理模擬試験問題集2・1級(ビジネス情報編)等 |

| 年間学習計画 | 前期 | 時間 | 後期 | 時間 |
|---|--|----|--|---|
| | 第1章 企業活動とソフトウェアの活用 1 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2 ビジネスにおけるソフトウェアの進化 | 30 | 30 | 第3章 表計算ソフトウェアの活用 1 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 2 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ 3 手続きの自動化 |
| 第2章 情報通信ネットワークの活用 1 情報通信ネットワークの導入と運用 第1回考査 2 情報資産の保護 | 4. データベースのソフトウェアの活用 ビジネス情報とデータベース データベースの利用 SQLの操作 | | | |
| 第3章 表計算ソフトウェアの活用 1 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 第2回考査 全商情報処理検定 | 40 | 40 | 第3回考査 学年末考査 全商情報処理検定 | 40 |
| 合 計 | | | | 140 |

| | | |
|------------------|---|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」を重ねよう。 ・各種情報処理検定の合格を目指します。検定試験は、日曜日に実施されます。必ず受験するようにしてください。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|--|-------------|----|-----|---|
| 教科 | 商業 | 科目名 | 商品開発と流通 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 経営ビジネス系列選択者 | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | | |

| | | | | | | | |
|----------|--|---|--|-------|--|--|--|
| 学習目標 | 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的学習活動を行うことを通して、商品開発と流通に必要な資質と能力を身につける。 | | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技術 | 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識と技術。 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力。 | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度。 | | | | | |
| 使用教科書 | 商品開発と流通(実教出版) | | | 使用副教材 | | | |

| 年間学習計画 | 前 期 | | 時間 | 後 期 | | 時間 | |
|--|---|-------|--|--|--|-------|----|
| | 第1章 商品開発の基本 第1節 商品と商品会社 第2節 商品開発プロセス 第3節 商品開発とブランド | | 第1回考査 | 15 | 第3章 商品の開発 第4節 商品のネーミングとパッケージの制作・評価 第5節 最終試作品テストと商品の完成 第6節 知的財産の登録 | 第3回考査 | 15 |
| 第2章 商品の企画 第1節 環境分析 第2節 開発方針とテーマの決定 第3節 探索的調査 第4節 アイデアの創出と評価 第5節 商品コンセプトの考案 第6節 検証的調査(コンセプト・テスト) 第7節 商品企画書の作成と承認 | | 第2回考査 | 第4章 事業計画 第1節 事業計画の立案 第2節 マーケティング計画(価格) 第3節 マーケティング計画(流通経路) 第4節 マーケティング計画(プロモーション) 第5節 事業計画書の作成と検証 第6節 事業計画の実践と修正 | | | | |
| 第3章 商品の開発 第1節 商品仕様書の作成 第2節 プロダクトデザイン 第3節 試作品の作成と評価 | | | | 第5章 商品開発の動向と課題 第1節 商品開発の動向 第2節 商品開発の課題 | 学年末考 | 20 | |
| | | | | 合 計 | | | 70 |

| | | |
|------------------|--|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・新たな商品やサービスを考え出そうとするワークおよびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、新たな商品やサービスを考え出そうと取り組む様子・アセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」、「ここが進んだ」を重ねよう。 | |

| | | | | | | | |
|------|--|-----|--|--|----|-----|---|
| 教科 | 商業 | 科目名 | ビジネス法規 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 経営ビジネス系列選択者 | | | |
| 対象者 | <input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 | | <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備 | <input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|---|-------|--------------|--|--|
| 学習目標 | ビジネスの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を身につける。 | | | | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技術 | ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解する力。 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力。 | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ビジネスに適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度。 | | | | |
| 使用教科書 | ビジネス法規（実教出版） | | 使用副教材 | ビジネス法規 準拠問題集 | | |

| | 前 期 | | 時間 | 後 期 | | 時間 |
|----------------|--------|---------|------|--------|-----------|----|
| | 年間学習計画 | 1章 法の概要 | | | 3章 財産権の変動 | |
| 1 ビジネスにおける法の役割 | | | | 1 契約 | | |
| 2 法の体系と解釈・適用 | | | | 2 物の売買 | 第3回考査 | 15 |
| 2章 権利・義務と財産権 | | | | 3 物の対策 | | |
| 1 権利・義務財産権 | | 第1回考査 | 15 | 4 不法行為 | | |
| 2 物と物権・債権 | | | 5 時効 | 学年末考査 | 20 | |
| 3 知的財産権 | 第2回考査 | 20 | | | | |
| | | | | 合 計 | | 70 |

| | | |
|------------------|---|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・ワークシート、課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組み(グループワーク及びディスカッション他)、ニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」を重ねよう。 ・グループワークやディスカッションにおいて積極的に自分の意見を伝えよう。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|-----|--|--|----|-----|---|
| 教科 | 商業 | 科目名 | ソフトウェア実習 | 年次 | 3年 | 単位数 | 2 |
| 履修区分 | <input type="checkbox"/> 必修修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択 | | 選択条件 | 文理系列選択者 | | | |
| 対象者 | <input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 | | <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備 | <input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員 | | | |

| | | | |
|----------|---|---|--|
| 学習目標 | ビジネスの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を身につける。 | | |
| 目指す資質・能力 | 知識・技術 | 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識と技術。 | |
| | 思考・判断・表現 | 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力。 | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 企業活動を改善する力の向上を目指して自らを学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度。 | |
| 使用教科書 | ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシーOffice2024対応(実教出版) | 使用副教材 | |

| 年間学習計画 | 前 期 | 時間 | 後 期 | 時間 |
|--|---------------------------------------|-------|--|---|
| | 第1章 パソコンの基本操作 1 起動と終了 2 ファイルの管理 | 第1回考査 | 15 | 7 データベース的に利用する 8 マクロの作成 9 マクロの編集 10 Word文書への利用 |
| 第2章 Word 1 入力のいろいろ 2 体裁を整える 3 表を作成する 4 ビジュアルな文書を作成する (ビジネス文書実務検定) | 第3回考査 | | | (ビジネス文書実務検定) |
| 第3章 Excel 1 データを入力する 2 計算をする 3 体裁を整える 4 グラフを作成する 5 表を印刷する 6 いろいろな関数を利用する | 第2回考査 | 20 | 第4章 PowerPoint 1 簡単なプレゼンテーションを作成する 2 オブジェクトを挿入する 3 Excelの利用 4 効果的なプレゼンテーションにする | 15 |
| | | | 第5章 インターネットの活用 1 Webブラウザを利用する 2 Webデータを活用する (情報処理検定) | |
| | | | 合 計 | 70 |

| | | |
|------------------|---|--|
| 履修要件 | 1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。 | |
| 修得要件 | 1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。 | |
| 評価の方法 | 知識・技能 | 定期考査・課題提出による。 |
| | 思考・判断・表現 | 定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。 |
| 学習にあたっての注意とアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」を重ねよう。 ・検定試験は、日曜日に実施されます。必要に応じて受験するようにしてください。 | |